



Link “新風”

おかげさまで
Vol.50
(通算 第143号)

中秋の名月『十五夜』。今年は9月30日だそうです。
すすきを飾り、月見団子を供え・・・という方は少なくなったかもしれませんが、
窓からふっと月を見上げ、しばし物思いにふけるだけでもいいかもしれませんね。



『今宵月』

『今月の表紙』

いつもより大きく見えるという Super Moon を求めて裏山の高台へ。
望遠レンズで追いかけると、意外に早く動いていることに気づきました。
今、この瞬間、いったいどれだけの人がこの光景と対峙しているんだろう？
自分の周りには誰一人いないけれど、なぜか大勢の人たちとつながって
いるような、そんな不思議な気がしました。

撮影日時: 2012年5月5日

撮影と文: 設計2課 小針さん

夜長月・九月に入っても酷暑は続いていますが、朝晩は多少過しやすくなってきました。あれほど賑やかだった蝉の鳴き声も静かになって、祭りが終わったような寂しい気がするの私だけでしょうか。



さて、わが社も新しい期に入り気持ちもリセットし新しい目標に向かっていきましょう。内外を問わず政治経済が相も変わらず混沌とし閉塞感が漂っています。身近ですと沼津から西武が撤退することがきまり、南口にあるイーラも当初見込んでいた活況からするとおおよそかけ離れた惨憺たるものになっています。さらに、北口にある大型の店が撤退を表明するとのもっぱらの噂です。

一方、長泉町にある大型ショッピングセンター“サントムーン柿田川”は大いなる活況を呈していると云われています。3000台を収容できる駐車場も備え、近くには憩いの場所でもある東洋一の大湧水群があります。

この差は一体どうしてなのかの問いかけに十分な知識がない私には答えられませんが先の先までリスクまで見込んだ卓越したモノづくり技術があるか、ないかではないかと考えています。

規模は違いますが、1983年に開園したTDL(東京ディズニーランド)は、いまもってすばらしい成長を続けています。

開園当時、日本ではうまくいけなかった、開園は失敗に終わると口さがない評論家が結構いたようですがこの成功は見事なものです。

随分と昔ですがTDLの経営者の講演を聴くチャンスがありました。その中で覚えているただ一つの話があります。

ある両親が以前、幼い娘と三人でTDLに遊びに来たところ、娘はたいそう喜んだのでまた遊びにこようねと約束をした。ところがその娘さんは不幸にも亡くなってしまいました。娘を偲んで今日再び両親はTDLを訪れ娘と一緒に食事をしたこのテーブルで食事をしています。この話を聞いた店のキャスト(従業員)は、自分の裁量で娘さんの分として一言を添えて食事を用意してくれた。勿論、両親はいたく感動し涙を流して喜んだ。おおよそこういう内容でした。きっと両親は毎年リピーターとしてTDLを訪れているのではないかと推測します。キャストの奇をてらう行為ではなく思わず気持ちが行動に出たのでしょう。私は、時々このことを思い出し顧客対応の基本を思い出すわけです。



英国で開催された第30回夏季オリンピックは、8月12日に終了したばかりですが過ぎゆく時”が早すぎるのか遠い過去になったような気がしないでもありません。けれども、涙腺を刺激した感動はしばらく忘れられません。殺伐とした出来事が多い昨今、我々はしばしばこの涙腺から出る涙液で感性を磨いていかななくてはならないと思います。

「出雲立つ 出雲八重垣 妻込みに 八重垣造る その八重垣を」という歌をご存知でしょうか。島根県松江市佐草町に「八重垣神社」という出雲の縁結びの大神として知られている御社があります。古事記の中にあるヤマタノオロチ退治伝承の主人公であるクシナダヒメとスサノオノミコトを主祭神としています。私は、11月7日、8日とそこに行きます。旅行で行くのではなく、姪が八重垣神社で結婚式を挙げますので。姪の母親は、八重垣神社の代々宮司をされている佐草家とは親戚で今の宮司は叔父にあたります。八十何代目だそうです(凄)。先述の歌は、スサノオノミコトがクシナダヒメのことを想って詠んだ愛情一杯の日本最初の和歌であり、和歌の歌道のことを「八雲の道」というくらいだそうです。何かと興味深い神社ですのでいろいろ“調査”をしてきます。

もちろん、今期一年の皆さん、ご家族の健康と会社の発展も祈願してきます。



ご安全に！

社長 赤堀肇紀



知ってそうで知らない自分たち会社のコト。
改めて調べてみると、いろんなことが分かって、
より親近感が湧いてきますね。



◆製品のネーミング◆

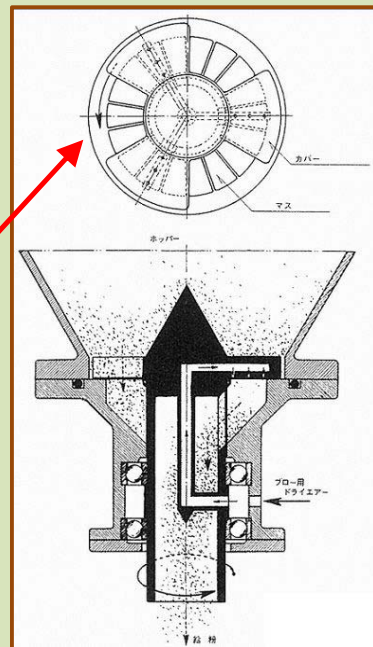
【イートップ】 **A'TOP**

語源はなんと、童話で有名な『イソップ (Æsop)』なのだそうです。
それに、赤武の頭文字の“A”、エンジニアリングの頭文字の“E”を
掛け、また定量フィーダの“TOP”になるという想いを込めて名付けた
とのことでした。
Æというスペルには、そんな意味が込められていたんですね。

【サンフロー】

初期のサンフローは、今と違いマスが図のような形をしていました。
このマスの形が太陽のようであることから、その名が付けられました。
(以前製作していたソーラーフローも、同様の理由でネーミングされた
ものです)
フローは流れや流量を意味し、太陽はまた頂点や中心を想起させ
ますので、やはり定量フィーダの中心的存在として相応しいネーミング
と言えますね。

当社の根幹を成す2機種のネーミング由来を調べてみましたが、
いかがでしたでしょうか？
次号以降も、こんな感じで当社のルーツに迫ってみたいと思います！



イートップ



サンフロー